

ほうじょううじてる はちおうじじょう
北条氏照と八王子城



はちおうじじょう ひきばし
▲八王子城(曳橋)

かつて、八王子に八王子城というお城がありました。北条氏照という人によって築かれた城で、豊臣秀吉の軍勢に一日で滅ぼされてしまいます。

儂く落城した八王子城ですが、戦国の山城としての状態を良く残していることなどから、平成18年(2006年)2月、財団法人日本城郭協会から、世界遺産の姫路城、江戸城と共に「日本100名城」に選ばれました。

八王子城とは、どんな城だったのでしょか。

北条氏照とは、どんな人だったのだろうか？

八王子城を築いた北条氏照は、小田原に本拠を置く戦国大名北条氏(鎌倉時代の北条氏と区別して、後北条氏といわれる場合もあります)3代目、氏康の次男として生まれました。三男だったという説もあります。生まれた年については、天文9年(1540年)といわれていますが、ほかにも説があって、はっきりしていません。氏照は子どものころ、多摩や入間・高麗(現在の埼玉県南部)に勢力を持っていた大石氏の養子となって「大石源三氏照」とも名乗り、滝山城へ入ります。こうして、大石氏の領地を北条氏のものにして北条氏の勢力を広げていきました。最大の敵だった三田氏をも滅ぼして北条氏の支配を強めていきます。

そして、氏照は下総・下野(現在の千葉県北部と茨城県南部・栃木県)へも、領地を広げていきました。他の大名との交渉だけでなく、戦も上手だった氏照は、やがて北条一族の中で中心的な立場に立っていきました。

八王子城について

八王子城は今の元八王子町から下恩方町、西寺方町にまたがる山に築かれた、戦国時代最大規模の山城です。もともと氏照がいた滝山城は、敵に攻められやすく守りにくい、なだらかな山にありました。永禄12年(1569年)には武田信玄に落城寸前まで攻められました。そこで氏照は攻めにくく守りやすい、険しい山に新しい城を築くことにしたのです。この新しい城には八王子権現社がまつられ、城の守り神とされました。そして、この城を八王子城と呼んだのです。

八王子城がいつ築かれたのかははっきりしておらず、元亀から天正初め(1570~1573年)、天正6年(1578年)ころ、天正10年(1582年)以降といろいろな説があります。山の麓には氏照が住む建物が、山頂には戦いのための建物である要害が造られ、城の周りには敵からの攻撃に備えて曲輪と呼ばれる土や石の囲いが造られました。

八王子城が築かれると、氏照は滝山城から八王子城に移ってきました。

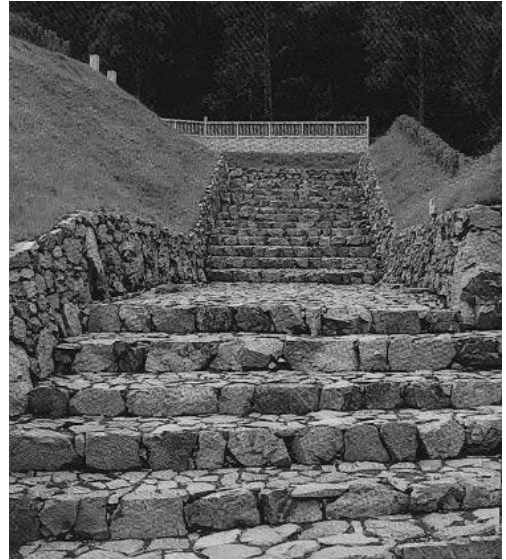
八王子という地名

平安時代、華嚴菩薩妙行和尚というお坊さんが、牛頭天王のお告げを受けて、牛頭天王と八人の王子を八王子権現社として深沢山(城山)という山にまつりました。この八王子権現社を、北条氏照が深沢山に城を築く時に城の守り神としてまつため、城は八王子城と呼ばれました。これが八王子の地名の起こりといわれています。

はちおうじじょう らくじょう 八王子城の落城

てんしやう ねん(1590年)、てんかとういつ かくち
天正18年(1590年)、天下統一をめざして各地の
だいみやう したが とよとみひでよし ほうじやう し せま
大名を従わせていた豊臣秀吉がついに北条氏に迫
ってきます。がつ にちそうちやう とよとみぐん まえだとしいえ
6月23日早朝、豊臣軍の前田利家と
うえすぎかげかつ すうまん たいぐん はちおうじじょう せ
上杉景勝の数万の大軍が八王子城を攻めました。こ
とき じやうしゆ うじてる とよとみぐん たたか そな かしん
の時、城主の氏照は豊臣軍との戦いに備えて、家臣
をつ ねらわ い はちおうじじょう
を連れて小田原に行っており、八王子城にはいません
でした。はちおうじじょう に残っていたのは、かしん
横地監物や中山勘解由などのわずかな武士と、
のうみん しゃくにん ぼう じよせい こ せんじん
農民・職人・お坊さんや、女性や子どもなど3千人ほ
どでした。このようなふじゆうぶん せんりよく すうまん
軍勢にはひとたまりもありません。しろ まも ひっし
城を守ろうと必死
になつて たたか
戦いましたが、はちおうじじょう はたったいちにち
らくじょう
落城してしまいました。

はちおうじじょう まも ひと にん せんししや で お つ
八王子城を守っていた人たちだけで、1300人もの戦死者が出ました。追い詰められた
おんな ひと こ しろ ごしゆでん たき みずか いのち た たたか
女の人や子どもは、城にあった御主殿の滝で自ら命を絶ったのです。この戦いがいかに
はげ いた ぞうぞう
激しく痛ましいものであったかが想像できるでしょう。はちおうじじょう らくじょう おだわら じやうしゆ
八王子城の落城は小田原にいた城主
うじてる ほうじやう し ひとびと おお あた おだわら ほうじやう し
の氏照はもちろんのこと、北条氏の人々にも大きなショックを与えました。小田原の北条氏
とよとみひでよし こうかく がつ にち うじてる せつぱく ほうじやう し めつぼう
は豊臣秀吉に降伏して、7月11日、氏照らは切腹しました。こうして、北条氏は滅亡しました。



▲ はちおうじじょう ここう こうぼう くふう
八王子城の虎口(攻防の工夫をこ
らした城の出入口)

はくつひん み だいみやう 発掘品から見た大名のくらし

いくさ せんごくじだい だいみやう いがい いちめん おだ のぶなが めずら
戦ばかりしていた戦国時代の大名にも意外な一面があります。織田信長は珍しい
ちやどうぐ この しゆうしゆう はちおうじじょうせき
茶道具などを好んで収集していました。八王子城跡
ちゆうごく そめつけ じ き げんりやう いし こうおん
からも中国の染付の磁器(原料の石をくだいて高温
でやいた、しろ かた
白くて硬いやきもの)や、イタリアでつく
たレースガラスなどのがいのく めずら しな ちやどうぐ こうろ
外国の珍しい品、茶道具や香炉
などがはくつ いくさ じやうず うじてる
発掘されています。戦が上手だった氏照ですが、
ちや ゆ こう たの ぶんかてき ゆた せいかつ
茶の湯やお香を楽しんだり、文化的に豊かな生活を
おく
送っていました。



▲ はちおうじじょうせき はくつ
八王子城跡から発掘され
た五彩磁器皿

しら 調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。市内のどの図書館に所蔵しているかは館内OPACで検索、または職員へおたずねください。

※☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

『よみがえる滝山城』 中田正光／著 2007年
滝山城を中心に、戦国時代の関東の武将について説明。

『決戦！八王子城』 前川寛／著 2009年
天正18年の八王子城合戦の様子を解説。少し難しめ。

『八王子城 一みる・きく・あるく— 改訂新版』 峰岸純夫、他／編 2001年
親子での会話形式で八王子城の歴史が語られ、遺跡などについても説明。

『特別展図録 北条氏照と八王子城』 八王子市郷土資料館／編 1990年
北条氏照について詳しく書いてある。難しめ。郷土資料館で開催された特別展の図録。

『図説 八王子・日野の歴史』 峰岸純夫／監修 2007年
写真や図は多いが、説明は少し難しめ。

『八王子城』 八王子市郷土資料館／編 2012年
御主殿跡の発掘調査の結果や、出土したものについて、図や写真付きで説明。

☆『郷土みてある記』 八王子市生活文化部広報課／編 1995年
小学校の先生が、八王子の歴史や関係の深い人物や動・植物、事柄を、小学生にもわかるようにやさしく解説したもの。

インターネット情報(最終確認日2022/1/18)

八王子市役所ホームページ(八王子城跡)

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kankobunka/003/003/001/001/p005201.html>

編集・発行 八王子市中央図書館

令和2年(2020年)7月

令和4年(2022年)1月

改訂